

おてら

春彼岸法要会

3月18日～24日

先祖への供養は

私への供養

三月二十一日(水・祝)

午前十一時より

彼岸中日法要

護持会総会

正午 おとぎ

おときも椅子席になっています

ご本尊様にお参りしてから

お墓参りをしましょう

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日
午後一時より

出遇い

住職 蒲原 靈英

春は「であい」の季節。新生活に入ったり、何か新しい事を始めたり。そこにはたくさんの新しい「であい」が待っています。

さて、この「であい」にはいろいろな意味があります。「会う」は、会議や同窓会など予定を立てて意図的に会うという予測可能な「あう」です。

「逢う」になると、逢い引きのように、愛する人や親しい人と「あう」となります。「合う」は、上の蓋と下の容器がぴったりと重なり合うという

「あう」で、合掌も右手と左手がぴったりと合わさらないと合掌になりません。「遭う」は、災害や事故などの災難や嫌な事に「あう」時に使います。

そして、皆さんには一般的ではないかもしれませんが、浄土真宗ではよく「遇う」を使います。裏の御正忌報恩講の記事にも使われています。

「遇」は「偶」と同じ意味で、偶然に予期もせず「あう」ことです。親鸞聖人は、「遇」を「たまたま」と読み、この「遇う」を大切にされました。そこには、29歳の時に一生の師である法然上人と出遇い、お念仏のみ教えと出遇った、その喜びと感謝の念が込められています。そして、

自分の都合で「会う」のでもなく、悲しみに「遭う」だけでもなく、人間のちっぽけな計らいを超えた「遇う」があるということをお教えて下さいます。例えば、とても厳しい上司がいたとしても、その方がいざ退職してしまつと、私を育てて下さる大切な「出遇い」だったと気付かされます。また、大切な人を亡くした時、誰だつて経験したくない辛さや悲しみに「出遭い」ますが、普段考えもしない、いのちの有り難さや生きることの大切さに「出遇う」こともできます。つまり、「出遇い」とは、日々の生活の中で、「出遭い」だと思っていた事が、実は自分の至らなから勝手に自分がそう思っていただけで、実はとても有り難く、ようこそ「出遭わせていただいたことよ」と感謝させてもらう事であったと、自分の思考が転換させられることによる「出遇い」なのです。これが、お念仏のみ教えです。

確かに、馬が合わない人、一生会いたくない人、恨んでも恨みきれない人などの「であい」があるかもしれませんが、「これも仏様のお計らい」と、大切な「出遇い」として感謝させていただきます。

合掌

本山で御正忌報恩講



宗祖親鸞聖人のご祥月命日を機縁に、お念仏のみ教えを伝えてくださった聖人のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通して、阿彌陀如来のご本願による救いを改めて深く味わう「御正忌報恩講法要」が、1月9日午後から16日午前まで本山・御影堂で営まれた。聖人に思いを寄せる全国の僧侶・門信徒が多く参拝し、み教えに出遇った喜びを分かち合っていた。

昨年は伝灯奉告法要期間中で、外陣の畳を外し椅子席となっていたが、今年は例年と同じ姿に戻り、畳に座ってお念仏する参拝者の声が御堂に響いた。冬の冷え込みが連日厳しい中、参拝を終えた人に温かいものをと、本山の職員が北境内地で小豆粥や、被災地支援を兼ねた南三陸のワカメ入りうどんを振る舞った。

また、10日から15日まで、日中法要後に国宝の書院でお齋が行われ、参拝者は一汁一菜を基本とした精進料理を楽しんだ。

4月4日(水)

春の日帰りバスツアー

寺泊海岸温泉 住吉屋

会費 ¥ 7,000 タオル付

浄光寺

10:00発/16:00着

鮮魚センターでお土産もどうぞ

申込み 025-229-0629 お寺へ



お誘い合わせの上
ふるってご参加ください!